

日 時 平成24年11月14日(水) 5校時
 児 童 男子5名 女子5名 計10名
 指導者 土谷 理恵

- 1 単元名 せつめいのしかたを考えて、分かりやすく書こう。～1年生にプレゼントしよう～
 学習材名 「しかけカードの作り方」・「おもちゃの作り方」(光村図書2年)

<育てたい主となる能力>

<単元を貫く言語活動>

①説明されている事柄の順序や、写真と文章のつながり確かめながら文章の大体を読み、「説明のしかた」について意識をもつことができる。

<読む(1) イ>

②おもちゃの作り方の手順に沿って、順序を表す言葉を使って説明する文章を書くことができる。

<書く(1) ア、イ、ウ>

順序を表す言葉を使って、おもちゃの作り方を説明する文章を書く活動。

2 児童と単元について

(1) 児童について

児童が学習してきた説明的文章では、1年生の「くちばし」で、絵・写真と文を対応させて読むことを学び、2年生1学期の「たんぼぼのちえ」では、時間の順序や理由づけの言葉に着目しながら読み、「どうぶつ園のじゅうい」では、時間的順序や事柄の順序を考えながら読んで、ひきつけられたことについて【はじめ—中—終わり】の構成で感想をまとめた。

また、経験したことや観察したこと、想像したこと、紹介したいことを文章に表す学習もしてきている。話す活動では「あったらいいな、こんなもの」などで身近な事物を簡単に説明するという活動を経験してきているが、書く教材としては本教材が初めての経験となる。説明書の性質についても理解させながら、学習を進めたい。

これらの学習をふまえ、本単元では、読む人が分かるための説明書のこつを学んだ後、それを生かして自分の作ったおもちゃの作り方について説明書を書く活動をさせる。

(2) 学習材について

「読んで、説明の仕方を考えよう」で習得した力を「わかりやすく説明しよう」で活用する複合単元として学習を進める。

ふるうちさんの説明書「しかけカードの作り方」は、開くと中にある物が飛び出すというカードの作り方を、写真と文章で分かりやすく説明している学習材である。実際に「しかけカード」を作る活動を行うので、どの児童も楽しく読み取りに参加できると思われる。教材文には、手順や事柄の順序が分かる言葉を用いていることや、説明の段落と照応して写真が使われていること、数字を使ってより具体的に説明していることなど、多くのこつがちりばめられている。

説明書を読みながらカードを作る際、児童が説明のこつに気づくことは予想される。文のまとまりや内容を考えながら読み、文章と照応している写真を確かめたり、順序を表す言葉に着目して読んだりすることで、内容の大体を読みとる力をつけさせたい。また、説明書の書き方として初めてふれる見出しの書かれ方にも着目させ、説明書の特徴に気づかせたい。

その後、「おもちゃの作り方」を「しかけカード」の説明書と比べながら、どのように書かれているか学習し、児童自身が説明書を書く時のこつを再確認させる。順序を示す言葉を使って明確な構成を考えて文章を書くことは話すことにも役立つ。「何を」「どうする」という文型を繰り返し書くので、よい指導の機会となる。説明書を書く教材としては本教材が初めての経験となるので、はじめから完全にできなくても繰り返し学ぼううちに上達すると考えて支援しながら指導を進めたい。

(3) 単元構想

①単元の全体構想

生活科の「おもちゃフェスティバル」でおもちゃを作っていることと、本単元を関連させながら学習を進めていく。導入で、1年生が見よう見まねで作ったおもちゃを提示し、説明書があればより上手に作ることができることや、説明書の性質<目的意識・相手意識>に気づかせる。1年生に説明書をあげることを意識させることで、一人一人が学習に対するめあてを具体的にもつことができると考える。

教材文「しかけカードの作り方」を読みながら作ってみることで、説明書の工夫に気づくことが予想される。ただ、教材文は完成度が高いため【分かりやすく説明するための工夫・こつ】は何かと問いかけても、漫然と読んでしまつてこつを焦点化できない児童もいると予想される。

そこで、生活科の「おもちゃ作り」の時間に、あまり親切ではない説明書をもとにおもちゃ作りを体験させておく。そのことで、教材文が、いかに親切なものであるのか実感を伴って理解できると考える。

また、形式段落ごとに「何が、どのように」書いてあるのかを簡潔な言葉でまとめる活動を、次学年の「中心となる語や文をとらえる」学習の前段階として取り入れたい。

自分の書いた説明書を1年生にあげることをゴールにすることで、説明書のこつを理解してから書く一連の学習に児童の意欲を持続させることができると考える。また、できあがった説明書を3年生に読んでもらつて分かりやすく書けているか評価してもらい、自分の説明書、学びに自信をもたせたい。

②本時の思いと工夫

2つの複合単元を貫く言語活動を「説明書を書く」ととらえ、児童に学習の最終ゴールを見据えさせるため、説明書の便利さや、読む人を意識して書かれているものがよい説明書であることに気づかせる。

そのため、説明書がない状態で作られたおもちゃや不備のある説明書を紹介することにより、児童が説明書とはどのようなものであるか、説明書の性質に気づくようになると考える。

1年生にあげる説明書を書くことをゴールにすることで、一人一人が学習に対するめあて、がんばらなければならないことを、今の自分なりに把握して、学習への見通しをもたせたい。

3 単元の指導目標

国語への 関心・意欲・態度	○事物の作り方に興味をもち、書かれていることを読み取ろうとしている。 ○学習したことを生かし、分かりやすく事物の作り方を説明しようとしている。
読むこと	◎説明されている事柄の順序や、写真と文章のつながりを確かめながら文章の大体を読み、「説明のしかた」について意識をもつことができる。(1)イ
書くこと	◎おもちゃの作り方の手順に沿って、順序を表す言葉を使って説明する文章を書くことができる。(1)アイウ
伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	・順序性を示す表現の意味を理解し、用いて書いている。(1)イ(ウ)

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・事物の作り方に興味をもち、書かれていることを読み取ろうとしている。
読む能力	・手順、事柄の順序などに気づいて読んでいる。 ・写真と文を照応させながら読んでいる。
書く能力	・初めから終わりまでを、内容のまとまりごとに幾つかに分けて配置し、手順に沿って書いている。 ・絵と照応させながら書いている。
言語についての 知識・理解・技能	・順序性を示す表現の意味を理解している。

5 単元の指導計画（全13時間）

【段階】	【学 習 活 動】	【読みの方法】
<p>第1次 (2時間)</p>	<p>〈生活科〉おもちゃフェスティバルに向けて、計画を立てて、おもちゃ作りをする。</p> <p>①提示されたおもちゃに関心を持ち、説明書作りに向けて学習の見通しをもつ。【本時】</p> <p>②学習材を読み、新出漢字や分からない言葉の学習をする。学習の進め方（計画）を決める。</p> <hr/> <p><評価></p> <p>①【関】説明書に関心を持ち、単元のゴール・学習の見通しをもつ。 《観察・シート・発言》</p> <p>②【関】書かれていることを読み取ろうとし、新出漢字を覚えたり、分からない言葉を国語辞典で調べようとしている。《観察》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2通りの説明する文章のどちらがよいか、読み比べる。 ・教師の範読の後、一斉読みさせ、ふるうちさんの説明書に書かれている大体をつかむ。
<p>第2次 (4時間)</p>	<p>①②教材文を読み、作り方の順序を調べながらしかけカードを作る。</p> <p>③④ふるうちさんの説明の書き方のコツを見つける。「説明の書き方のコツ」として整理し、まとめる。</p> <hr/> <p><評価></p> <p>①②【読】しかけカードを作るために、事柄の順序を考えたり文章と写真を合わせたりしながら読もうとしている。《観察・ノート》</p> <p>③④【読】作ったときの体験をもとに、文章の中に説明のこつや順序性を表す表現を見つけ、その意味を理解している。 《観察・ノート》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作った時の体験をもとに、何度も読み返したところ、写真を見て分かったところ、書いてあってよかったところ、使ってあってよかった言葉、順序で書いてあってよかったところに気づかせる。 ・順序を表す言葉に注目させたり、写真と照応させたりしながら、しかけカードを完成させる。 ・形式段落ごとに、「何が」「どのように」書かれているのか整理する。
<p>第3次 (7時間)</p>	<p>①なかむらさんの説明書を読んで、「説明のこつ」の使い方を確かめる。</p> <p>②③④おもちゃの説明書を「説明のこつ」を使いながら、分かりやすく書く。</p> <p>⑤書いた説明書を読み返し、自己批評したり、読み合っただ感想を伝え合ったりする。</p> <p>⑥説明書を3年生に読んでもらい、評価してもらう。</p> <p>⑦ほかの作り方や使い方、遊び方が書いてある本を読んで、説明のこつを見つけることができる。</p> <p><生活科>「おもちゃフェスティバル」で、1年生に説明書をプレゼントする。</p> <hr/> <p><評価></p> <p>①【関】なかむらさんの説明書を読んで、「説明のこつ」の使い方を確かめている。《観察・発言》</p> <p>②③④【書】おもちゃの説明書をまとまりに分け、順序を考えて書いている。《記述》</p> <p>⑤⑥【言】書いた説明書を読み返し、自己批評している。《記述》 説明書を読み合い、感想を交流している。《観察・発言》</p> <p>⑦【読】他の作り方や使い方、遊び方が書いてある本を読んで、説明のこつを見つけている。《観察・発言》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるうちさんの説明書と比べながら、なかむらさんの説明書を読む。 ・「説明書のこつ」を確認する。 ・読む人、相手を意識しながら、自己批評させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><説明書のこつ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○構成 <ul style="list-style-type: none"> ・前書き 材料と道具 作り方 使い方 ○文章と写真を照応させている ○順序を表す言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・まず ・つぎに ・それから ・こんどは ・さいごに ・これで ○数字で表す良さ。 ○事柄の配列 <ul style="list-style-type: none"> ・材料と道具 ・作り方 ・使い方 ○することの文と注意の文 </div>

6 本時の指導（1/13時間）

(1) 本時の目標

- ・1年生にプレゼントするため説明書について学習し、書けるようになることの見通しと自分のめあてをもつ。

(2) 展開

段階	学 習 活 動 ○発問 ・期待する児童の反応	教師の支援 指導事項 ◎評価 ・留意事項 ◆支援
<p>導 入 15 分</p>	<p>1 1年生がただで見た「おもちゃ」に関心をもち、上手に作ることでできなかった理由を考える。 ○みんなが作ったおもちゃを見て、1年生が作ってみたいそうです。 ・ちょっと、むずかしかったのかなあとと思います。</p> <p>○どうしたら、動くおもちゃを作ることができたのでしょうか。 ・作り方をくわしく教えれば、作ることができたと思います。 ・説明書や計画があれば、もっと上手にできると思います。</p> <p>2 説明書について知っていること、体験を話し合う。 ○このおもちゃ（A）を作った1年生に、作り方を説明してもらいました。紹介します。 (紹介文)</p> <p>○1年生に、どんなことを教えてあげればよいですか。 ・きちんと動くように、しくみを教えてあげればよかったです。 ・もう少しくわしく、順番に教えてあげればよかったです。</p> <p>3 本単元の学習に見通しをもつ。</p> <p>1年生に説明書をプレゼントしよう。</p>	<p>ものを作る時に、説明書があると上手に作ることができることに気づかせること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活科で「おもちゃフェスティバル」の準備をしていることと関連させて話題を提供する。 ・作るのが簡単なおもちゃでも、見ただけでは上手に作ることに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生に聞いて書き取ったメモとして、紙板書を提示し、視覚化することで説明の不備に気づかせる。 ・体験したことから予想させたい。 ・見ただけでは作ることでできない子や、どこから作り始めたらいいかわからない子もいたなど様子を知らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生に説明書を書いてあげたいという児童の思いから課題を導く。
<p>展 開</p>	<p>4 よりよい書き方があることに気づく。 ○このおもちゃ（B）についての説明書を紹介します。どちらの説明書を参考にした方が、上手に作ることでできそうですか。 ・②の方が、くわしく書いてあって分かりやすいです。</p> <p>○説明書の学習で、知りたいこと、できるようになりたいことは、なんですか。 ・読んだ人が分かるような説明書の書き方を知りたいです。 ・自分で書くことができるようになりたいです。</p>	<p>説明書を書く時、目的意識・相手意識が大切であることを理解させること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2通りの説明書には、読む人にとって分かりやすさの上で違いがあることに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活科の「おもちゃフェスティバル」で、1年生におもちゃの説明書をプレゼントすることを確認し、説明書を書こうという意識をもたせる。 ・言語活動への見通しをもたせる。 ・教科書に「しかけカードの作り方」「けん玉の作り方」という説明書のお手本がのっていることを知らせる。

27分	<p>5 これからの学習への思いを書き、発表する。</p> <p>○そのために、伝えたい相手、知りたいこと、特にがんばりたいこと、みんなで話し合いたいことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生が、読んで分かるような説明書を書いてあげたいです。 ・「しかけカードの作り方」のいい所を勉強して、まねをしたいです。 	<p>◎読んだ人が分かりやすい説明書の書き方を学習することが分かり、自分のめあてをもつことができる。 《発言・シート》</p> <p>◆考えをまとめて書くことができるよう、板書を見て話し合ったことを確認したり、児童の考えを整理したりする。</p>
終末 3分	<p>6 学習のふりかえりをする。</p> <p>○教科書の「しかけカードの作り方」「けん玉の作り方」をくわしく学習して、相手が読んで分かる説明書を書くことができるようになります。</p> <p>7 次時の予告</p> <p>○学習の予定を書いたり、新出漢字、分からない言葉を調べたりします。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 単元のゴールと学習全体の見通しをもたせること。 </div> <p>・1年生に説明書をプレゼントすることを確認する。</p>

(3) 板書計画

